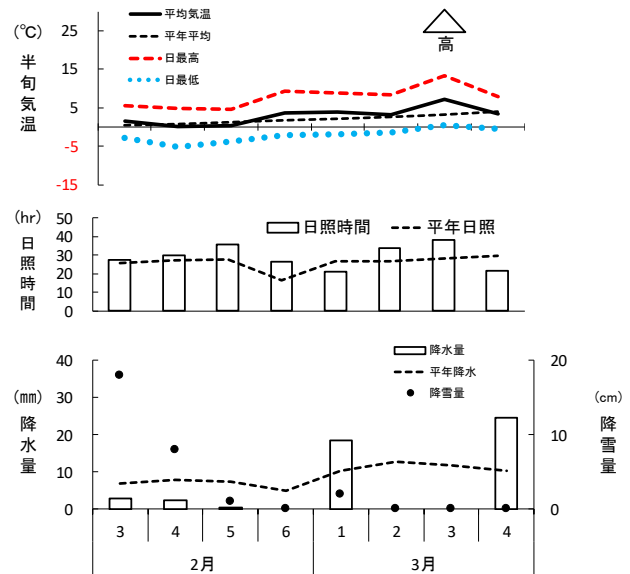


令和6年播種（令和7年産）麦類作況試験生育状況（古川農試）〔3月20日調査結果〕

＊3月18日に調査を実施

1 気象概況〔2月中旬～3月中旬〕(図1)

- ・平均気温は、3月第3半旬で平年より高温となったが、その他の期間は平年並みであった。
- ・日照時間は、2月第5、第6半旬、3月第2、第3半旬で平年より多く、3月第1、第4半旬で平年より少なかった。
- ・降水量は、3月第1、第4半旬で平年より多く、その他の期間は平年より少なかった。



2 生育概況

1) 3月18日現在の生育状況（表1）

10月中旬播種区

- ・草丈は、シュンライが13.4cmで平年よりやや短く、ミノリムギが12.0cmで平年より短く、シラネコムギが15.3cmで平年並、夏黄金が11.6cmで平年よりやや短かった。
- ・茎数は、シュンライが992本/m²で平年よりやや多く、ミノリムギが1115本/m²で平年より多く、シラネコムギが1137本/m²で平年より多く、夏黄金が1204本/m²で平年より多かった。
- ・葉数は、シュンライが8.3枚で平年差+0.7、ミノリムギが8.4枚で平年差+0.4、シラネコムギが8.2枚で平年差+0.1、夏黄金が8.2枚で平年差+0.4であった。
- ・葉色（GM値）は、シュンライが49.9、ミノリムギが50.7、シラネコムギが41.1、夏黄金が44.9であった。

10月下旬播種区

- ・草丈は、シュンライが8.8cmで平年よりやや短く、ミノリムギが10.7cmで平年並、シラネコムギが11.7cmで平年並、夏黄金が9.9cmで平年並であった。
- ・茎数は、シュンライが733本/m²で平年並、ミノリムギが1014本/m²で平年より多く、シラネコムギが852本/m²で平年並、夏黄金が935本/m²で平年より多かった。
- ・葉数は、シュンライが6.6枚で平年差+0.2、ミノリムギが7.1枚で平年差+0.3、シラネコムギが7.5枚で平年差+0.5、夏黄金が6.6枚で平年差+0.1であった。
- ・葉色（GM値）は、シュンライが53.1、ミノリムギが51.8、シラネコムギが46.8、夏黄金が50.3であった。

図1 気象経過 古川アメダス

2) 3月18日現在の幼穂長及び幼穂分化程度と生育ステージの予測（表2、3）

10月中旬播種区

- ・シュンライの幼穂長は平年差+1.8mmと平年より長かったが、ミノリムギおよび小麦の幼穂長はおむね平年並みであった。
- ・幼穂形成始期は、シラネコムギが3月10日に、夏黄金が3月14日に達した。
- ・シュンライでは、減数分裂期が4月12日、出穂期が4月21日、開花期が4月29日と予測され

る。ミノリムギでは、減数分裂期が4月18日、出穂期は4月27日、開花期は5月3日と予測される。シラネコムギでは、減数分裂期が4月22日、出穂期が5月2日、開花期が5月14日と予測される。夏黄金では、減数分裂期が4月23日、出穂期が5月2日、開花期が5月13日と予測される。

10月下旬播種区

- ・大麦、小麦ともに幼穂長は平年並みであった。
- ・幼穂形成始期は、ミノリムギが2月21日、シラネコムギが3月15日、夏黄金が3月18日に達した。
- ・シュンライでは、減数分裂期が4月20日、出穂期が4月27日、開花期が5月4日と予測される。ミノリムギでは、減数分裂期が4月21日、出穂期は4月30日、開花期は5月5日と予測される。シラネコムギでは、減数分裂期が4月25日、出穂期が5月5日、開花期が5月15日と予測される。夏黄金では、減数分裂期が4月26日、出穂期が5月5日、開花期が5月15日と予測される。

3 栽培管理の状況

- ・幼穂形成期追肥を大麦の中旬播種区で2月26日、下旬播種区で3月21日に実施した。
- ・2回目の踏圧を3月4日に実施した。
- ・3月19日にハーモニー75DF水和剤を散布した。

表1 生育状況

品種	区別	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)		
		本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
大麦	シュンライ 中旬播種区	13.4	92	94	992	138	112	8.3	-0.7	+0.7	49.9	-	-
	下旬播種区	8.8	70	87	733	96	99	6.6	-1.2	+0.2	53.1	-	-
	ミノリムギ 中旬播種区	12.0	74	84	1115	128	115	8.4	-0.9	+0.4	50.7	-	-
	下旬播種区	10.7	78	97	1014	91	126	7.1	-1.0	+0.3	51.8	-	-
小麦	シラネコムギ 中旬播種区	15.3	93	101	1137	129	129	8.2	-0.6	+0.1	41.1	-	-
	下旬播種区	11.7	81	95	852	77	101	7.5	-0.9	+0.5	46.8	-	-
	夏黄金 中旬播種区	11.6	84	92	1204	128	133	8.2	-0.5	+0.4	44.9	-	-
	下旬播種区	9.9	85	102	935	92	131	6.6	-1.3	+0.1	50.3	-	-

注1) 平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。
注2) 葉色は令和6年播種から測定を開始したため前年差、平年差はない。
注3) 中旬播種区は令和6年10月18日播種、下旬播種区は令和6年10月31日播種

表2 幼穂長及び幼穂分化程度

品種	区別	幼穂長(mm)			幼穂分化程度	幼穂形成始期		
		本年	前年差	平年差		本年(月日)	前年(月日)	平年(月日)
大麦	シュンライ 中旬播種区	5.4	+0.4	+1.8	X	1/6	1/5	1/24
	下旬播種区	2.4	-1.8	+0.1	IX	2/19	2/12	3/3
	ミノリムギ 中旬播種区	3.3	-1.1	+0.1	IX	1/20	1/16	2/5
	下旬播種区	2.5	-0.8	+0.3	IX	2/21	2/13	3/4
小麦	シラネコムギ 中旬播種区	1.8	-0.2	+0.2	IX	3/10	2/23	3/4
	下旬播種区	1.2	-0.5	+0.2	VIII	3/15	3/6	3/19
	夏黄金 中旬播種区	1.7	-0.7	+0.0	IX	3/14	2/24	3/6
	下旬播種区	1.0	-0.8	-0.1	VIII	3/18	3/5	3/20

注1) 平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。
注2) 幼穂分化程度: V期末満は省略。
注3) 幼穂形成始期: 幼穂長1mmに達した日。
注4) 中旬播種区は令和6年10月18日播種、下旬播種区は令和6年10月31日播種

〔参考〕麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期			穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5～0.6	0.6～1.0	1.0～1.2	1.2～4.0	4.0～5.0
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5～0.7	0.7～1.5	1.5～2.0	2.0～4.0	4.0～5.0

注1) 幼穂分化程度はⅠ～Ⅹの10期に分類されるが、Ⅴ期以前は外部形態による判定が困難であるため省略した。

注2) 厳密にはⅦ期は前期と後期に、Ⅸ期は前期、中期、後期に区分される。

表3 減数分裂期、出穂期、開花期の本年予測値

品種名	区分	減数分裂期			出穂期			開花期		
		予測値 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)	予測値 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)	予測値 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)
大 麦	シュンライ 中旬播種区	4/12	4/4	4/12	4/21	4/15	4/23	4/29	4/22	4/30
	下旬播種区	4/20	4/8	4/18	4/27	4/20	4/28	5/4	4/22	5/4
	ミノリムギ 中旬播種区	4/18	4/10	4/17	4/27	4/19	4/28	5/3	4/25	5/4
	下旬播種区	4/21	4/12	4/21	4/30	4/21	5/2	5/5	4/26	5/6
小 麦	シラネコムギ 中旬播種区	4/22	4/18	4/24	5/2	4/26	5/3	5/14	5/5	5/13
	下旬播種区	4/25	4/21	4/26	5/5	4/28	5/7	5/15	5/6	5/16
	夏黄金 中旬播種区	4/23	4/17	4/24	5/2	4/26	5/3	5/13	5/5	5/13
	下旬播種区	4/26	4/20	4/26	5/5	4/28	5/6	5/15	5/6	5/15

注1) 平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 減数分裂期: 幼穂長が3cm に達した日。

注3) 出穂期: 全茎の40～50%が出穂した日。

注4) 開花期: 全穂数の40～50%が開花した日。

注5) 予測値は予測シート ver4.0 を用いた値。

注6) 中旬播種区は令和6年10月18日播種、下旬播種区は令和6年10月31日播種

参考: [麦類の生育ステージ予測シート Ver.4.0\(追補\)](#)

令和6年播種（令和7年産）麦類生育調査は生育状況〔3月20日調査結果〕

表4 麦類生育調査は 生育状況

担当普及 センター	品種	実施場所	草丈(cm)			茎数(本/㎡)			幼穂長(mm)			葉色 (GM値)
			本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差	本年
大河原	シュンライ	角田市島田	6.0	—	—	122	—	—	0.4	—	—	50.6
	ホワイトファイバー	大河原町金ヶ瀬	9.9	90	—	725	117	—	1.4	-1.1	—	54.1
仙台	シュンライ	仙台市宮城野区	12.4	84	—	542	91	—	4.2	-1.1	—	35.1
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	12.4	64	98	1222	73	121	1.3	-0.6	+0.1	48.2
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	10.8	—	—	750	—	—	0.2	—	—	41.8
	夏黄金	涌谷町猪岡	10.4	92	—	662	85	—	0.5	-0.5	—	46.6
登米	あおばの恋	登米市豊里町	12.8	76	82	522	74	88	0.9	-0.3	+0.0	38.0
	シュンライ	石巻市桃生町	12.8	56	82	818	104	91	2.6	-2.6	-0.7	42.8
石巻	ミノリムギ	石巻市桃生町	16.4	112	108	1088	120	138	3.0	+0.6	+0.8	41.8
	シラネコムギ	石巻市桃生町	15.0	116	—	786	70	—	0.7	-0.4	—	40.3

注1) 平年値は、過去7か年中の値から、最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 大河原「シュンライ」は令和6年播種から調査値変更のため、前年値(比・差)、平年値(比・差)はない。

注3) 大河原「ホワイトファイバー」は、令和元年播種から調査のため、平年値(比・差)はない。

注4) 仙台「シュンライ」は、令和4年播種から調査のため、平年値(比・差)はない。

注5) 美里「シラネコムギ」は令和6年播種から調査地変更のため、平年値・前年値(比・差)はない。

注6) 美里「夏黄金」は令和元年播種から調査地変更のため、平年値(比・差)はない。

注7) 石巻「シラネコムギ」は令和5年播種から調査地変更のため、平年値(比・差)はない。

注8) 葉色は令和6年播種から測定を開始したため、前年値(比・差)、平年値(比・差)はない。

<生育調査はの状況等>

大河原 「シュンライ」、「ホワイトファイバー」

- ・1月中旬以降、平年よりもやや暖かく経過し、2月中旬以降、平均気温は寒暖を繰り返しながら、徐々に平年値よりも高くなってきている。
- ・「シュンライ」の草丈は短く、茎数も少ない。播種期の遅れから出芽が遅れたことが大きな要因と考えられる。
- ・「ホワイトファイバー」の草丈はやや短い茎数は多い。12月～1月上旬の低温の影響で生育は小さく生育も遅れているが、2月中旬以降の天候により回復傾向。

仙台 「シュンライ」

- ・平均気温は、2月上旬は平年より低い傾向で推移したが、2月中旬から3月中旬にかけて平年より高く推移した。
- ・前回調査では、一部で鳥類による葉の食害が目立ったが、回復していた。
- ・3月20日現在、草丈は12.4cm、茎数は541.7本/㎡、幼穂長は4.2mmとなっており、茎立期に入っている。
- ・茎立期は3月11日ごろ、幼穂形成始期は2月10日ごろと推定される。

大崎 「シラネコムギ」

- ・気温は、2月第4半旬は低温、2月第6～3月第3半旬は高温であった。低温期を中心に降雪があり、2月第1～第4半旬にかけては根雪となった。
- ・3月19日現在の生育量は、草丈12.4cm、茎数は1,222本/㎡で2月12日調査から12.4%減少しており、葉色は48.2(GM値)であった。
- ・幼穂長は1.3mmで幼穂形成始期に達していた。

美里 「シラネコムギ」、「夏黄金」

- ・シラネコムギは播種が遅いが、旺盛に分げつし始めている。
- ・夏黄金は2月まで鳥害を受けたが、2月下旬に株直し追肥を行い、ほぼ生育ムラがない状態に回復している。
- ・過去数年に比べるとやや茎数は少なく、幼穂長の発達も遅れている。

登米 「あおばの恋」

- ・鳥類による食害は回復してきている。
- ・低温にあたり下葉が枯れてきているが、新葉は抽出してきているため今後、回復してくると思われる。
- ・3月18日時点の幼穂長は0.9mmとなっており、幼穂形成期は4月1日頃と予測される。

石巻 「シュンライ」、「ミノリムギ」、「シラネコムギ」

- ・調査は3月18日に実施した。
- ・2月の平均気温は平年差-1.2℃、日照時間は平年比116%、降水量は平年比9%であり、低温少雨であった。
- ・3月18日の生育量は、「シュンライ」の草丈は12.8cm、茎数は818本/m²、幼穂長は2.6mmだった。「ミノリムギ」の草丈は16.4cm、茎数は1088本/m²、幼穂長は3.0mmだった。「シラネコムギ」の草丈は15.0cm、茎数は786本/m²、幼穂長は0.7mmだった。